

科目名	病理学概論1	学年	1 年 期生
担当者		期 別	後期
単位数	1 単 位	講義・実習	講義
時間数・授業回数	30H・15回	専任・兼任	兼任
実務経験	大学の客員准教授として勤務し、感染制御学講座を担当し、数々の研究・論文発表を行っている。		

一般目標 (GIO)

ヒトの体内でどのように細胞、組織、生理機能が障害されて疾患を起こしているかという基本原理をおもに組織の形態変化などから理解し、その知識を身につける。

回数	月	日	限目	項目	行動目標 (SBOs)
1	10	2	2	病理学とは？、疾病とは？	病理学の疾病分類を示し、ある疾患がどの分類に相当するかを説明する。
2	10	9	2	組織の障害と修復1 (適応: 萎縮、肥大、過形成)	障害因子の強さに応じた様々な生体の反応を適応現象ととらえ、その具体例を説明する。
3	10	16	2	組織の障害と修復2 (変性、壊死)	障害因子の強さに応じた様々な生体の反応を適応現象ととらえ、その具体例を説明する。
4	10	23	2	組織の障害と修復3 (再生、化生、修復 (創傷治癒、骨折治癒、異物処理、移植))	障害因子の強さに応じた様々な生体の反応を適応現象ととらえ、その具体例を説明する。
5	10	30	2	代謝障害と疾病 (痛風、黄疸、糖尿病)	代謝過程の異常を生化学的かつ生理学的に概説する。
6	11	6	2	循環障害1 (うっ血、出血、浮腫)	用語の意味を再確認し、概略を説明する。
7	11	13	2	循環障害2 (血栓、塞栓、梗塞)	用語の意味を再確認し、概略を説明する。
8	11	20	2	循環障害3 (側副循環障害、高血圧、DIC)	用語の意味を再確認し、概略を説明する。
9	11	27	2	炎症 (滲出性炎、増殖性炎)	炎症を大きく2つに捉えそれぞれの特徴を説明する。
10	12	4	2	免疫異常・アレルギー1 (免疫担当細胞、免疫応答)	免疫応答の概略を述べたうえで、アレルギーの4つの型を分類し、種々の膠原病の特徴を説明する。
11	12	11	2	免疫異常・アレルギー2 (アレルギー、自己免疫疾患)	免疫応答の概略を述べたうえで、アレルギーの4つの型を分類し、種々の膠原病の特徴を説明する。
12	12	18	2	腫瘍1 (悪性腫瘍の性質、転移)	悪性腫瘍の特徴を細胞レベル、組織レベルで列記し、転移の様式と具体例を説明する。
13	12	25	2	腫瘍2 (発生機構、診断、治療)	悪性腫瘍の発生のしくみ、診断法、治療法を説明する。
14	1	8	2	先天性異常 (優性遺伝、劣性遺伝)	主要な優性遺伝、劣性遺伝による疾患及び染色体異常によるものを説明する。
15	1	15	2	病因 (内因、外因 (物理学的、化学的、生物学的))	疾病とそこに至る最初のきっかけを説明する。

評価基準		教科書	参考書
筆記試験	90%	病理学概論 (改訂第3版) (柔道整復学校協会監修、南江堂)	よくわかる病理学の基本としくみ (田村著、秀和システム)
出席	10%		
	%		
	%		

1限目 (9:00~10:30)

2限目 (10:40~12:10)

3限目 (12:40~14:10)

4限目 (14:20~15:50)

科目名	病理学概論2			学年	3年 期生
担当者				期別	前期
単位数	1単位			講義・実習	講義
時間数・授業回数	30H・15回			専任・兼任	兼任
実務経験	歯科大学歯学部歯学科を卒業し、大学にも勤務した経歴を持つ。開業し臨床経験も豊富で、自治体による市民公開講座の講師も務めるなど一般から学生まで様々な形で教育に携わる。				
一般目標 (GIO)					
<p>柔道整復師を目指す学生諸氏が、病理学の総論的内容を学習することにより、正常解剖学と生理学で学んだ人体の正常像との違いを理解して欲しい。また、国家試験に準拠した授業内容を構築したい。</p> <p>国家試験過去問を使用教材として、演習形式の授業を行い、国家試験頻出項目や必出内容を重点的に、1～2年学習した内容の総復習を行い、国家試験本番での確実に得点できる実力を養成したい。</p>					
回数	月	日	限目	項目	行動目標 (SBOs)
1	4	4	1	1.病理学 2.疾病 P.1～8	病理学的検査、疾病の概念を理解させる。
2	4	11	1	3.細胞障害① P.9～28	退行性病変、代謝性病変を理解させる。
3	4	18	1	3.細胞障害②	退行性病変、代謝性病変を理解させる。
4	4	25	1	4.循環障害① P.29～48	血液の循環障害(充血、うっ血、出血、血栓、塞栓)
5	5	9	1	4.循環障害②	リンパ液の循環障害、脱水症、高血圧症。
6	5	16	1	5.進行性病変① P.49～60	病的増殖と細胞・組織の適応を理解させる。
7	5	23	1	5.進行性病変②	細胞障害、循環障害、進行性病変について説明できる。
8	5	30	1	6.炎症 P.61～70	炎症の一般的内容、形態学的変化、分類を理解させる。
9	6	6	1	7.免疫異常/アレルギー P.71～84	免疫の仕組み、免疫不全、自己免疫疾患、アレルギー。
10	6	13	1	8.腫瘍① P.85～112	腫瘍の概念、組織構造、発育諸段階を理解させる。
11	6	20	1	8.腫瘍②	良性腫瘍、悪性腫瘍(癌)について理解させる。
12	6	27	1	9.先天性異常 P.113～126	先天性異常(遺伝、染色体異常)、奇形を理解させる。
13	7	4	1	10.病因① P.127～150	内因(遺伝、内分泌、免疫、ストレス)
14	7	11	1	10.病因②	外因(栄養障害、物理・化学的要因、生物学的外因)
15	7	18	1	付)運動器病理 P.151～166	整形外科の疾患別各論に掲載の疾患の概略を解説。
評価基準			教科書		参考書
期末試験	100%	病理学概論 改定第3版 (医歯薬出版)		柔道整復師国家試験過去問題集	
	%				
	%				
	%				

1限目 (9:00～10:30)

2限目 (10:40～12:10)

3限目 (12:40～14:10)

4限目 (14:20～15:50)

科目名	臨床医学総論1			学年	1年 期生
担当者				期別	前期
単位数	1単位			講義・実習	講義
時間数・授業回数	30H・15回			専任・兼任	兼任
実務経験	内科開業医師 内科開業医の立場より診察の基本について講義する。				
一般目標 (GIO)					
医療者としての心構えの大切さを知り、問診での聴き方及び身体の診察(生命徴候観察、視診、触診、打診、聴診、感覚検査、反射検査)の仕方を学び、より正しい診断に近づく。					
回数	月	日	限目	項目	行動目標 (SBOs)
1	4	15	3	診察概論	医療者の心構え等を述べる事ができる。
2	4	22	3	医療面接	問診について説明できる。
3	5	13	3	視診1	体格・姿勢と疾患の関係が説明できる。
4	5	20	3	視診2	肥満・やせの基準及び意識状態が説明できる。
5	5	27	3	視診3	異常運動が説明できる。
6	6	3	3	視診4	異常歩行と疾患の関係が説明できる。
7	6	10	3	視診5	皮膚病変や爪の変化について説明できる。
8	6	17	3	視診6	頭部、顔面、頸部の視診が説明できる。
9	6	24	3	視診7	胸部の変形や腹部の視診が説明できる。
10	7	1	3	視診8	側彎や四肢の変形について説明できる。
11	7	8	3	打診1	打診の方法、打診音の種類を説明できる。
12	7	22	3	打診2	胸部、腹部の打診が説明できる。
13	7	29	3	聴診	肺、心臓、腹部の聴診が説明できる。
14	8	5	3	触診1	三叉神経痛や皮膚腫瘤を説明する事ができる。
15	8	19	3	触診2	筋肉、骨、関節の触診を説明する事ができる。
評価基準			教科書		参考書
筆記試験	100%	一般臨床医学 (全国柔道整復学校協会監修)		国家試験過去問題集 柔道整復師用 (医道の日本社発行)	
	%				
	%				
	%				

1限目 (9:00～10:30)

2限目 (10:40～12:10)

3限目 (12:40～14:10)

4限目 (14:20～15:50)

科目名	臨床医学総論2			学年	1年	期生
担当者				期別	後期	
単位数	1単位			講義・実習	講義	
時間数・授業回数	30H・15回			専任・兼任	兼任	
実務経験	内科開業医の立場より診察の基本について講義する。					
一般目標(GIO)						
医療者としての心構えの大切さを知り、問診での聴き方及び身体の診察(生命徴候観察、視診、触診、打診、聴診、感覚検査、反射検査)の仕方を学び、より正しい診断に近づくことを目標とする。						
回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)	
1	9	30	3	触診3	胸部、腹部などの触診を説明する事ができる。	
2	10	7	3	生命徴候1	体温について説明できる。	
3	10	21	3	生命徴候2	血圧、脈拍について説明できる。	
4	11	11	3	生命徴候3	呼吸について説明できる。	
5	11	18	3	感覚検査	表在・深部・複合感覚などを説明する事ができる。	
6	11	25	3	反射検査1	表在反射を説明する事ができる。	
7	12	2	3	反射検査2	腱反射を説明する事ができる。	
8	12	9	3	反射検査3	病的反射、自立神経反射などを説明する事ができる。	
9	12	16	3	代表的な臨床症状1	発熱について説明できる。	
10	12	23	3	代表的な臨床症状2	出血傾向、リンパ節腫脹について説明できる。	
11	1	6	3	代表的な臨床症状3	意識障害、チアノーゼについて説明できる。	
12	1	20	3	代表的な臨床症状4	関節痛をきたす疾患などの説明ができる。	
13	1	27	3	代表的な臨床症状5	浮腫について説明できる。	
14	2	3	3	代表的な臨床症状6	肥満・やせの病態生理を説明する事ができる。	
15	2	3	4	検査法	生理機能検査、検体検査を説明する事ができる。	
評価基準			教科書			参考書
筆記試験	100%		一般臨床医学 (全国柔道整復学校協会監修)			国家試験過去問題集 柔道整復師用 (医道の日本社発行)
	%					
	%					
	%					

1限目(9:00~10:30)

2限目(10:40~12:10)

3限目(12:40~14:10)

4限目(14:20~15:50)

科目名	臨床医学各論1			学年	2年 期生
担当者				期別	前期
単位数	1単位			講義・実習	講義
時間数・授業回数	30時間・15回			専任・兼任	兼任
実務経験	内科開業医の経験を踏まえて各疾患を講義する。				
一般目標(GIO)					
多くの疾患を幅広く学ぶことにより、患者に対してより適切な対処と指導ができるようになることを目標とする。					
回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1	4	5	3	呼吸器疾患1	かぜ症候群、肺炎、結核などを説明する事ができる。
2	4	12	3	呼吸器疾患2	気管支喘息、COPD、肺癌を説明する事ができる。
3	4	19	3	呼吸器疾患3	肺血栓塞栓症、気胸を説明する事ができる。
4	5	10	3	循環器疾患1	心不全、虚血性心疾患、心臓弁膜症などを説明する事ができる。
5	5	17	3	循環器疾患2	先天性疾患、高血圧などを説明できる。
6	5	24	3	循環器疾患3	閉塞性動脈硬化症、不整脈などを説明できる。
7	5	31	3	消化器疾患1	上部消化器疾患を説明する事ができる。
8	6	7	3	消化器疾患2	下部消化器疾患を説明する事ができる。
9	6	14	3	消化器疾患3	肝疾患を説明する事ができる。
10	6	21	3	消化器疾患4	胆膵腹膜疾患を説明する事ができる。
11	6	28	3	代謝疾患1	糖尿病を説明する事ができる。
12	7	5	3	代謝疾患2	脂質異常症を説明する事ができる。
13	7	12	3	代謝疾患3	肥満症、メタボリックシンドローム、痛風を説明する事ができる。
14	7	19	3	内分泌疾患1	内分泌の総論を述べる事ができる。
15	7	26	3	内分泌疾患2	下垂体疾患、甲状腺疾患などを説明できる。
評価基準			教科書		参考書
筆記試験	100%	一般臨床医学		国家試験過去問題集	
	%	(全国柔道整復学校協会監修)		柔道整復師用	
	%	(医道の日本社発行)			
	%				

1限目(9:00~10:30)

2限目(10:40~12:10)

3限目(12:40~14:10)

4限目(14:20~15:50)

科目名	臨床医学各論2			学年	2年 期生
担当者				期別	後期
単位数	1単位			講義・実習	講義
時間数・授業回数	30時間・15回			専任・兼任	兼任
実務経験	内科開業医の経験を踏まえて各疾患を講義する。				
一般目標(GIO)					
多くの疾患を幅広く学ぶことにより、患者に対してより適切な対処と指導ができるようになることを目標とする。					
回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1	10	4	3	内分泌疾患3	副甲状腺疾患、副腎疾患などを説明する事ができる。
2	10	11	3	血液・造血器疾患1	貧血疾患、白血病などを説明する事ができる。
3	10	18	3	血液・造血器疾患2	悪性リンパ腫、紫斑病、骨髄腫などを説明する事ができる。
4	11	1	3	腎・尿路疾患1	腎不全、慢性腎臓病などを説明する事ができる。
5	11	8	3	腎・尿路疾患2	透析療法、腎移植を説明する事ができる。
6	11	15	3	腎・尿路疾患3	腎炎、ネフローゼ症候群、膀胱炎などを説明できる。
7	11	22	3	腎・尿路疾患4	嚢胞腎、前立腺肥大症、尿路結石などを説明できる。
8	12	6	3	神経疾患1	脳血管障害、てんかん、片頭痛などを説明する事ができる。
9	12	13	3	神経疾患2	認知症、パーキンソン病、ALSなどを説明する事ができる。
10	12	20	3	感染症1	感染経路、日和見感染予防策などを説明する事ができる。
11	12	27	3	感染症2	腸管、皮膚、性行為感染症などを説明する事ができる。
12	1	10	3	感染症3	破傷風、ウイルス感染症を説明する事ができる。
13	1	17	3	リウマチ・膠原病1	関節リウマチ、SLE、強皮症などを説明する事ができる。
14	1	24	3	アレルギー・膠原病2	上記以外の膠原病、アナフィラキシーショックなどを説明する事ができる。
15	1	31	3	環境要因による疾患	熱中症、一酸化炭素中毒を説明する事ができる。
評価基準			教科書		参考書
筆記試験	100%	一般臨床医学 (全国柔道整復学校協会監修)		国家試験過去問題集 柔道整復師用 (医道の日本社発行)	
	%				
	%				
	%				

1限目(9:00~10:30)

2限目(10:40~12:10)

3限目(12:40~14:10)

4限目(14:20~15:50)

科目名	外科学概論1			学年	2年 期生
担当者				期別	前期
単位数	1単位			講義・実習	講義
時間数・授業回数	30H・15回			専任・兼任	兼任
実務経験	大学大学院で口腔外科に所属 講義や臨床実習を行うとともに、臨床では全身麻酔下の手術を含む診療に35年以上の経験を有して				
一般目標 (GIO)					
外科学の基礎となる総論を理解し、日常臨床の場において遭遇することの多い代表的な外科疾患を知る。					
回数	月	日	限目	項目	行動目標 (SBOs)
1	4	4	2	損傷①	損傷と創傷について説明できる。
2	4	11	2	損傷②	熱傷の原因や深度による分類、合併症を述べる事ができる。
3	4	18	2	炎症と外科感染症①	定義と分類について説明する。外科感染症について述べる事ができる。
4	4	25	2	腫瘍①	概念および良性・悪性腫瘍の特徴について説明できる。
5	5	9	2	腫瘍②	腫瘍の発育形式、診断方法、治療法について述べる事ができる。
6	5	16	2	ショック①	定義と分類について説明する。またショックの緊急処置について述べる事ができる。
7	5	23	2	輸血,輸液①	輸血の基礎知識を説明し、輸血の実際・副作用について述べる事ができる。
8	5	30	2	輸血,輸液②	一般輸血について説明できる。
9	6	6	2	消毒と滅菌①	消毒薬の特徴を説明し、滅菌の種類について述べる事ができる。
10	6	13	2	手術①	各種手術法の種類および適用について述べる事ができる。
11	6	20	2	麻酔①	麻酔の種類を説明し、それぞれの特徴を述べる事ができる。
12	6	27	2	移植と免疫①	移植の用語と要点を述べる事ができる。
13	7	4	2	出血と止血①	出血の種類と特徴を説明し止血法を理解する事ができる。
14	7	11	2	心肺蘇生法①	心肺蘇生法の定義を説明し、手順を説明できる。
15	7	18	2	外科学概論1まとめ	外科学概論の要点を述べる事ができる。
評価基準			教科書		参考書
筆記試験	100%	全国柔道整復学校協会監修教科書外科学概論改訂第4版			
	%	(医歯薬出版)			
	%				
	%				

1限目 (9:00～10:30)

2限目 (10:40～12:10)

3限目 (12:40～14:10)

4限目 (14:20～15:50)

科目名	外科学概論2			学年	2年 期生
担当者				期別	後期
単位数	1単位			講義・実習	講義
時間数・授業回数	30時間・15回			専任・兼任	兼任
実務経験	大学大学院で口腔外科に所属 講義や臨床実習を行うとともに、臨床では全身麻酔下の手術を含む診療に35年以上の経験を有して				
一般目標 (GIO)					
外科学の基礎となる総論を理解し、日常臨床の場において遭遇することの多い代表的な外科疾患を身につける。					
回数	月	日	限目	項目	行動目標 (SBOs)
1	10	3	2	脳神経外科疾患①	脳神経疾患の主要徴候と病態を説明できる。
2	10	10	2	脳神経外科疾患②	意識障害の分類について述べる事ができる。
3	10	17	2	脳神経外科疾患③	脳血管障害および頭部外傷について説明する事ができる。
4	10	24	2	甲状腺・頸部疾患①	甲状腺機能亢進症および甲状腺腫瘍について述べる事できる。
5	10	31	2	胸壁・呼吸器疾患①	胸壁・呼吸器疾患の症候と検査について説明できる。
6	11	7	2	胸壁・呼吸器疾患②	胸膜疾患・縦隔疾患等について説明できる。
7	11	14	2	胸壁・呼吸器疾患③	胸部損傷について説明できる。
8	11	21	2	心臓・脈管疾患①	心臓・血管系疾患に対する検査法を説明できる。
9	12	5	2	心臓・脈管疾患②	心疾患の特徴について対比できる。
10	12	12	2	心臓・脈管疾患③	脈管疾患について述べる事ができる。
11	12	19	2	乳腺疾患①	診断方法について説明でき、乳腺疾患の種類を述べる事ができる。
12	12	26	2	腹部外科疾患①	症状と検査について説明できる。
13	1	9	2	腹部外科疾患②	代表的腹部外科疾患について述べる事ができる。
14	1	16	2	腹部外科疾患③	腹部外傷について説明できる。
15	1	23	2	外科学概論2まとめ	外科学概論の要点を述べる事ができる。
評価基準			教科書		参考書
筆記試験	100%	全国柔道整復学校協会監修教科書外科学概論改訂4版			
	%	(医歯薬出版)			
	%				
	%				

1限目 (9:00～10:30)

2限目 (10:40～12:10)

3限目 (12:40～14:10)

4限目 (14:20～15:50)

科目名	リハビリテーション医学1			学年	1 年 期生
担当者				期別	後期
単位数	1 単位			講義・実習	講義
時間数・授業回数	30H・15回			専任・兼任	兼任
実務経験	理学療法士として熊本機能病院に勤務後、大学リハビリテーション部の教員として勤務し、臨床経験も教育経験も豊富。				
一般目標 (GIO)					
日本におけるリハビリテーション医学は戦後導入され、日本リハビリテーション医学会が設立されたのは昭和38年であり、まだ歴史の浅い医学である。本科目は、そのリハビリテーション医学を理解することが目標である。まず医学の概略を理解し、その後、リハビリテーションにおける評価と診断および治療に関する知識を修得する。					
回数	月	日	限目	項目	行動目標 (SBOs)
1	10	2	3	リハビリテーションの概念	リハビリテーションの概念と歴史について説明できる。
2	10	9	3	リハビリテーションの対象と障害者の実態(1)	医学的リハビリテーションについて説明する。
3	10	16	3	リハビリテーションの対象と障害者の実態(2)	リハビリテーション医学について説明する。
4	10	23	3	障害の階層とアプローチ	ICFとICIDHについて説明する。
5	10	30	3	リハビリテーション評価学(1)	運動学と機能解剖について説明する。
6	11	6	3	リハビリテーション評価学(2)	各評価項目について説明する。
7	11	13	3	リハビリテーション評価学(3)	各評価項目について説明する。
8	11	20	3	リハビリテーション評価学(4)	各評価項目について説明する。
9	11	27	3	リハビリテーション評価学(5)	各評価項目について説明する。
10	12	4	3	リハビリテーション障害学と治療学(1)	リハビリテーション障害学について説明する。
11	12	11	3	リハビリテーション障害学と治療学(2)	リハビリテーション障害学について説明する。
12	12	18	3	リハビリテーション障害学と治療学(3)	リハビリテーション治療学について説明する。
13	12	25	3	リハビリテーション障害学と治療学(4)	リハビリテーション治療学について説明する。
14	1	8	3	リハビリテーション障害学と治療学(5)	リハビリテーション治療学について説明する。
15	1	15	3	まとめ	
評価基準			教科書		参考書
筆記試験	100%	リハビリテーション医学(全国柔道整復学校協会監修)			
	%				
	%				
	%				

1限目 (9:00～10:30)

2限目 (10:40～12:10)

3限目 (12:40～14:10)

4限目 (14:20～15:50)

科目名	リハビリテーション医学2			学年	2 年 15 期生
担当者				期別	前期
単位数	1 単 位			講義・実習	講義
時間数・授業回数	30H・15回			専任・兼任	兼任
実務経験	理学療法士として病院に勤務後、大学リハビリテーション部の教員として勤務し、臨床経験も教育経験も豊富。				
一般目標 (GIO)					
日本におけるリハビリテーション医学は戦後導入され、日本リハビリテーション医学会が設立されたのは昭和38年であり、まだ歴史の浅い医学である。本科目は、そのリハビリテーション医学を理解することが目標である。リハビリテーション医学1で得た医学の概略をもとに、2では各疾患におけるリハビリテーション評価と診断および治療に関する知識を修得する。					
回数	月	日	限目	項目	行動目標 (SBOs)
1	4	10	3	リハビリテーション医学の関連職種	リハビリテーション医学の関連職種について説明する
2	4	17	3	リハビリテーション治療技術	理学療法・作業療法・言語聴覚療法について説明する
3	4	17	4	リハビリテーション治療技術	補装具について説明する
4	5	8	3	高齢者のリハビリテーション(1)	平均寿命と健康寿命について説明する。
5	5	8	4	高齢者のリハビリテーション(2)	フレイルについて説明する。
6	5	22	3	高齢者のリハビリテーション(3)	パーキンソン病・脳卒中について説明する。
7	5	22	4	運動器のリハビリテーション(1)	骨折について説明する。
8	6	5	3	運動器のリハビリテーション(2)	骨粗鬆症・捻挫について説明する。
9	6	5	4	運動器のリハビリテーション(3)	上肢損傷について説明する。
10	6	19	3	運動器のリハビリテーション(4)	下肢損傷について説明する。
11	6	19	4	運動器のリハビリテーション(5)	頸肩腕症候群について説明する。
12	7	3	3	運動器のリハビリテーション(6)	腰痛について説明する。
13	7	3	4	リハビリテーションと福祉	社会福祉・介護保険について説明する。
14	7	17	3	障害者スポーツ	障害者スポーツの概要について説明する。
15	7	17	4	障害者スポーツ	障害者スポーツについて説明する。
評価基準			教科書		参考書
筆記試験	100%	リハビリテーション医学(全国柔道整復学校協会監修)			
	%				
	%				
	%				

1限目 (9:00～10:30)

2限目 (10:40～12:10)

3限目 (12:40～14:10)

4限目 (14:20～15:50)

科目名	リハビリテーション医学3		学年	3 年 期生	
担当者			期別	前期	
単位数	1 単位		講義・実習	講義	
時間数・授業回数	30時間 15回		専任・兼任	兼任	
実務経験	臨床経験を持つ教員が実際に境遇する高齢者の疾病と障害に関する講義を行う。				
一般目標 (GIO)					
リハビリテーション医学3において、疾病と障害の基本を理解し、出くわす傷病に対して適切な判断ができるようになる。本科目は高齢者の運動機能の維持・回復に対する治療の基礎となることを認識し習得する。					
回数	月	日	限目	項目	行動目標 (SBOs)
1	4	10	1	フレイル(加齢と老化について)	フレイルの概要を理解する。
2	4	17	1	ロコモティブシンドローム	ロコモティブシンドロームの説明ができる。
3	4	24	1	サルコペニア	サルコペニアの説明ができる。
4	5	8	1	高齢者をとりまく医療制度	高齢者の医療制度を理解する。
5	5	15	1	包括支払い制度	日常生活自立判定基準が説明できる。
6	5	22	1	医療保険の算定制限	医療保険を理解する。
7	5	29	1	認知症	認知症の種類を説明できる。
8	6	5	1	高齢者虐待	高齢者虐待の概要を知る。
9	6	12	1	要介護状態の予防	要介護状態の予防を知る。
10	6	19	1	地域リハビリテーション	地域包括ケアシステムを理解する。
11	6	26	1	パーキンソン病のリハビリ	パーキンソン病を理解する。
12	7	3	1	脳卒中の概要	脳卒中の概要を理解する。
13	7	10	1	脳卒中の障害	脳卒中の障害について理解する。
14	7	17	1	脳卒中のリハビリ	脳卒中のリハビリを理解する。
15	7	24	1	まとめ	期末試験に向け、履修内容を整理する。
評価基準			教科書		参考書
期末試験	60%		リハビリテーション医学 第4版		
態度点	15%				
小テスト	25%				
	%				

1限目 (9:00～10:30)

2限目 (10:40～12:10)

3限目 (12:40～14:10)

4限目 (14:20～15:50)

科目名	整形外科学		学年	2年	期生
担当者			期別	前期	
単位数	1単位		講義・実習	講義	
時間数・授業回数	30時間 15回		専任・兼任	兼任	
実務経験	大学院歯科学研究所口腔顎顔面病態学講座 顎顔面腫瘍制御学分野 大学病院 顎顔面口腔外科 教授				
一般目標 (GIO)					
柔道整復師を養成するために必要な整形外科学の専門知識ならびに技術を教授し、広く社会に貢献しうる人材を育成することを目標とする。					
回数	月	日	限目	項目	行動目標 (SBOs)
1	4	4	3	運動器の基礎知識、診察法	運動機器の役割・診察法を説明する
2	4	11	3	整形外科学 検査法	適切な検査法を説明する
3	4	18	3	整形外科学 治療法	診察法、検査法から治療を関係づける
4	4	25	3	骨・関節損傷 総論 リハビリ総論 スポーツ整形外	骨折、関節損傷、スポーツ外傷について分類する
5	5	9	3	疾患別 各論①	感染性、非感染性について説明する
6	5	16	3	疾患別 各論②	感染性、非感染性について説明する
7	5	23	3	疾患別 各論③	全身の骨、軟部疾患について説明する
8	5	30	3	疾患別 各論④	全身の骨、軟部疾患について説明する
9	6	6	3	疾患別 各論⑤	神経麻痺、絞扼性神経障害の説明をする
10	6	13	3	身体別 各論①	体幹について説明をする
11	6	20	3	身体別 各論②	肩甲骨及び上肢の疾患を説明する
12	6	27	3	身体別 各論③	肩甲骨及び上肢の疾患を説明する
13	7	4	3	身体別 各論④	骨盤及び下肢の疾患を説明する
14	7	11	3	身体別 各論⑤	骨盤及び下肢の疾患を説明する
15	7	18	3	まとめ	講義全体について復習し総括する
評価基準			教科書		参考書
期末テスト	100%		整形外科学 改訂第4版 南江堂		
	%				
	%				
	%				

1限目 (9:00～10:30)

2限目 (10:40～12:10)

3限目 (12:40～14:10)

4限目 (14:20～15:50)

科目名	社会保障制度		学年	1 年 期生	
担当者			期 別	後期	
単位数	1 単 位		講義・実習	講義	
時間数・授業回数	15時間 7回		専任・兼任	専任	
実務経験	臨床経験を持つ教員が社会保障制度の仕組みや療養費の仕組み、取扱い方について教科書を用いて解説する。				
一般目標 (GIO)					
社会保障制度にはどのようなものがあり、それぞれにどのような役割があるかを理解する。また、療養費についての取扱いについても理解し、柔道整復師となった後に適切な取り扱いができるようになることを目標とする。					
回数	月	日	限目	項目	行動目標 (SBOs)
1	12	16	1	社会保障制度について	社会保障の機能、社会保険制度、年金制度を理解する。
2	12	23	1	社会保障制度について	介護保険制度、社会福祉制度の種類を理解する。
3	1	6	1	社会保障制度について	国民医療費に含まれるもの、国民医療費の現状、国民医療費のうち柔道整復療養費が含まれる割合。
4	1	20	1	療養費について	医療保険の種類、療養の給付、療養費払いについて理解する。
5	1	22	1	療養費について	給付方式、支給条件、受領委任払いと償還払い方式を理解する。
6	1	23	1	療養費について	施術管理者、受領委任の取り扱いができる場所、施術録や領収書などの取扱いを理解する。
7	1	27	1	療養費について	療養費の算定について理解する。
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
評価基準			教科書		参考書
期末試験	100%	社会保障制度と柔道整復師の職業倫理			
	%				
	%				
	%				

1限目 (9:00~10:30)

2限目 (10:40~12:10)

3限目 (12:40~14:10)

4限目 (14:20~15:50)

科目名	柔道整復の適応			学年	3年	期生
担当者				期別	後期	
単位数	2単位			講義・実習	講義	
時間数・授業回数	30H・15回			専任・兼任	専任	
実務経験	臨床経験約15年、教員歴10年以上の臨床経験も、教育経験も豊富な教員が担当する					
一般目標(GIO)						
柔道整復術適応現場において、緊急搬送を要するものとそうでないものを区別できる能力を身に付け、 損傷者・罹患者に対して適切な対応ができる能力を身に付ける。						
回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)	
1	9	26	3	柔道整復術の適否	適応と不適の境界を説明できる。	
2	10	3	3	損傷に類似した疾患①	内臓疾患を疑う疼痛について説明できる。	
3	10	10	3	損傷に類似した疾患②	腰痛を伴う疾患について説明できる。	
4	10	17	3	損傷に類似した疾患③	化膿性炎症・軟部組織の圧迫損傷について理解する。	
5	10	24	3	血流障害を伴う損傷	臨床現場において想定される症例を説明できる。	
6	10	31	3	末梢神経損傷を伴う損傷	臨床現場において想定される症例を説明できる。	
7	11	7	3	脱臼骨折	部位別に分類しそれぞれに対応できる。	
8	11	14	3	外出血を伴う損傷	柔道整復術の観点から損傷を理解し説明できる。	
9	11	21	3	病的骨折・脱臼	基礎疾患についての知識も備え対応できる。	
10	11	28	3	意識障害を伴う損傷	救急対応時の立ち回りを含め説明できる。	
11	12	5	3	脊髄症状のある損傷	部位別に分類しそれぞれを説明できる。	
12	12	12	3	呼吸運動障害を伴う損傷	胸部外傷の柔道整復術適応の境界を説明できる。	
13	12	19	3	内臓損傷の合併が疑われる損傷	脱臼・骨折に分けて画像を用いて説明できる。	
14	12	26	3	高エネルギー外傷	随伴した症状・合併症に対応する能力を修得する。	
15	1	9	3	総復習	1～14項を理解し説明できる。	
評価基準			教科書			参考書
期末試験	100%	医療の中の柔道整復(南江堂)			柔道整復師国家試験問題 (公益財団法人柔道整復研修試験財団ホームページ)	
	%					
	%					
	%					

1限目(9:00～10:30)

2限目(10:40～12:10)

3限目(12:40～14:10)

4限目(14:20～15:50)